

寄居町商工会 新商品・新サービス発表会レポート

寄居町商工会は県内の商工会として初めて、地元の中小企業を集めた「第1回新商品・新サービス合同記者発表会」を1月28日に寄居町商工会館で開催した。当日は、飲食業をはじめ、建設業、製造業など地元企業8社が参加して、独自のアイデアやサービスのPR活動を行った。本事業は国の伴走型小規模事業者支援推進事業を活用して実施されたもので、発表会の模様はYouTubeでもライブ配信された。

寄居町の現状と本企画への対応について

総務省・経済産業省の2016年「経済センサスー活動調査」によれば、寄居町の事業者数は1,175社で、産業別の割合は、建設業11.7%、製造業12.5%、卸売・小売業23.0%、宿泊・飲食業11.8%、医療・福祉9.7%、その他サービス業27.6%となっている。寄居町は中心市街地を中心とした商業地域で、商業・サービス業の事業者が多い特徴を持つ。

このうち小規模事業者数については、2012年が915社、2016年が868社となっており4年間で5.1%減少しているなど、厳しい経営環境にある。産業別に小規模事業者数の減少率をみると、建設業7.0%、製造業6.5%、卸売・小売業6.9%、宿泊・飲食業8.4%、その他サービス業4.2%となっている。一方、町民の高齢化に伴い、医療・福祉では事業所数が6.7%増加している。

当町の人口は今後も減少が見込まれており、少子高齢化によって消費構造も変化しているため、事業者は新たな需要の獲得が必要となっている。一方、小規模事業者にとって、新たな需要を獲得することは難しく、各社独自の取り組みでは限界があるのも事実。当商工会が小規模事業者を対象に実施したアンケート調査『経営状況の分析』によると、経営課題のうち、最も回答割合が高かったものは、「売上拡大」で、全体の53%を占めた。また、具体的に実施したい売上拡大方法は、「新製品／新商品／新サービス／新メニュー等をつくりたい」が40%で最も多



発表会に参加した地元企業8社
(1社は都合により当日欠席)

く、その後「ビジネスパートナーを探したい」(32%)が続いた。この結果、新商品開発等による売上拡大に意欲的な事業者が多いことが読み取れた。

こうした状況から、小規模事業者が独自にPR活動を実施することは難しく、かつ売上拡大効果(新たな需要獲得効果)が高い取組みについて側面支援をするためにも、伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、合同記者発表会事業を企画した。

今回の合同記者発表会は、県内53商工会では初めての試みということで、今年度の目玉事業として、一年がかりで準備した。結果、初開催にも関わらず、YouTubeライブ配信も同時に行うことになり、オミクロン株が猛威を振るう中、結果的に多くの皆様にYouTubeを通して発表会をご覧いただけたと感じている。このノウハウを活かして、参加企業各社の商売に活かしていただけることを期待している。商工会では、今後も定期的に合同記者発表会を開催することで、地域の活性化に貢献していきたいと考えている。

寄居町商工会 商業・サービス産業担当：白川 真



株式会社マジックマイスター・コーポレーション
代表取締役 大谷 芳弘 氏

■プロフィール：2010年に趣味の「マジック」と「広報」を組み合わせる企業の商品をイベントで紹介を行なう日本初の広報PRマジック会社を設立。お金をかけずに中小企業が宣伝する「単独プレスリリース」、地域を活性化させる「共同プレスリリース」、この2つの広報手法をマニュアル化。現在、中小企業庁のよる支援拠点全国本部サポーター（令和4年度で8期目）として、全国47都道府県ごとの広報マニュアルを作成。同時に全国で「新製品&新サービス合同記者発表会」を開催。7年間で22都道府県にて合計89回開催。別名：広報の魔術師。

今回のPR活動の指導を行った「中小企業庁よる支援全国本部サポーター（広報担当）」の株式会社マジックマイスター・コーポレーション代表取締役社長の大谷芳弘氏に話を伺った。

—— 今回のPR発表会開催の意義や狙い、成果についてお考えを教えてください。

私は7年前から、全国の商工会や商工会議所など支援機関と共に『新商品&新サービス合同記者発表会』を開催し、これまで青森県から沖縄県まで22の都道府県で合計89開催、計705社の事業所に参加頂きました。

開催の目的は2つです。1つは小規模事業者に自社の新製品をマスコミへ発表することで認知度を向上させ売上UPに繋げること。もう1つは支援機関が合同記者発表会という新しい販路開拓手法を学び、いずれ支援機関が支援を行い単独で記者発表を開催できるようになることです。

—— 小さい会社が一堂に集まり発表会を実施するメリットをどのようにお考えでしょうか。

小規模事業者が独自で広報するのは、マスコミからの審査（考査）に対して信用を得るのに非常に時間がかかります。そこで、支援機関が主催して開催をすることでメディアの方にも“信用”が持て、また、8社が決められた日程で、マニュアルに従い支援をすること

で無駄なく効率よく事業を進めていくことができます。

—— 寄居町商工会の情報発信事業を組立てる際、特に腐心された点やこの事業を活用してPR活動を行うメリットなどがあれば教えてください。

支援に関しては、経営指導員様が「企業の強み分析」「プレスリリースの作成方法」「プレゼンのやり方」など、すべてマニュアルを活用して効率良くサポートできるのがメリットです。

また、事業者同士が第2回目の講義で、他の事業所様と「顧客ターゲット」や「コンセプト」についてブレていないか？全員ディスカッション形式でワークを行うことで自社の商品やサービスについて客観的に分析・整理することができます。

—— 中小企業がPR活動を手掛ける意義や効果についてお考えを教えてください。

企業にとってPR活動とはお金を使って宣伝をすることで、直接、自社の商品説明を行うことができます。それに対して広報は「いかに社会に役に立つのか」「なぜ、その商品を開発したのか？その理由など」社会性が求められます。この合同記者発表会を通じて、中小企業はプレゼン力も身に付けていただきたいと思います。と思っています。

新商品・新サービス発表会に参加した企業 8 社の紹介

商品名：まるちベンチ☆ひのき

山柘丸太 株式会社 代表取締役 町田 昌之

▶『まるちベンチ』は、一見、二人掛けのベンチがワンタッチ（約3秒）で四人掛けのテーブルに変形するのが特徴です。ひのきの木の自然な木目は、長い歳月をかけて生み出された模様で、同一模様のもは2つとしてありません。時間が経つにつれて、色合いや風合いが変化して美しい味わいを感じる事が出来ます。ぬくもりある風合いと、背もたれに当たる丸みが気持ち良く、幅広い年齢層のお客様に好評を頂いております。



〒 369-1202 寄居町桜沢 997-5
☎ 048-581-4721
<https://yamatochi.wixsite.com/bench>

商品名：踏んで me!NEO

株式会社 荻野製作所 代表取締役 荻野 千之

▶一般的な足踏み式消毒スタンドを利用できない方を対象に、車椅子対応『踏んで me!NEO』を1月28日に発売しました。この商品の特徴は、車椅子や爪先の上がりにくい方でも利用できることです。ボトルリフトアップ方式を採用しており、ボトルを持ち上げることにより、①ノズルの高さが変わらない ②低重心で安定性が高い ③ボトルの交換がし易い ④ボトルを本体内部に格納を実現しました。介護施設・リハビリセンター・その他バリアフリーが求められる施設を対象に、販売会社「ICS Engineering 株式会社」を通じて販売開始しました。



〒 369-1203 寄居町寄居 1700-1 ☎ 080-1396-7252 <https://ics-eng.co.jp/>

商品名：戦国 寄居みかんアイス

お米 café さかもと オーナー 坂本 明生

▶『戦国寄居みかんアイス』の特徴は、戦国時代（天正年間 1573-1592）鉢形城主の北条氏邦の時代に小田原より移植され 400 年以上栽培されている、歴史ある寄居町の特産品で、自然の甘酸っぱさが特徴の温州みかんを原料としています。また、樹齢が 100 年以上経過している「福来（ふく）みかん」は縁起物としてお正月の飾り物として珍重されています。貴重な寄居みかんをデザートにして皆様にお届けしたいと考案し商品化しました。



〒 369-1203 寄居町寄居 1169-1
☎ 048-514-7788
<https://okomecafe-sakamoto.jimdofree.com/>

商品名：バイキャン

ジェイズ 株式会社 代表取締役 森田 淳一

▶この度、自転車・バイクでソロキャンプをされる方への新サービス『バイキャン』を開始しました。本サービスはお客様が予定されている所までキャップ用品（テント・寝袋・BBQ コンロ・テーブル・椅子など）や食品をお届けし設営から後片付けまで行います。（エリアは県北に限定）ツーリングの際に邪魔になる大きな荷物やゴミの問題を考えずに『最高のツーリング』を楽しんでいただくことが出来ます。



〒 369-1224 寄居町鉢形 131-1 鉢形ビル 2F
☎ 048- 577- 7716
<https://blapper.net>

商品名：プロレスのリングで宿泊（通称：リンパク）

エンターテインメントアリーナ・Magic Box 広報担当：岡村 健

▶弊社は令和元年より東武東上線玉淀駅から徒歩7分の場所でプロレス大会を主催しています。コロナ禍の影響により、興業自体が中止になることが多く施設の稼働がほとんどなくなりました。この会場を有効活用するために、新たな“究極のサービス”が提供できないかと考え、リング上または下で寝泊まりすることができる『リングで宿泊』通称「リンパク」を提供しています。広大な敷地内に、リング常設のアリーナ（道場）があり会議室や研修施設として使用できます。また、その周辺（屋外）でBBQや花火をすることができ、さらに、カフェスペースやボルダリング、トレーニング器具も利用可能です。



〒 3369-1202 寄居町桜沢 414
☎ 048-598-6531
<https://www.mbpw.co.jp>

商品名：スマート DX 看板

アート・コア株式会社 代表取締役：安斎 治一郎

▶DX化にチャレンジしたい小さな飲食店や個人商店の方向けに、スマホで簡単にLED看板の製作、屋外でも見やすいデジタルサイネージとして『スマートDX看板』を2月1日より新たに販売開始しました。今までのデジタルサイネージは一度パソコンで作成したデータをサイネージに送って再生しましたが、この商品はスマホで撮影したデータ情報を、Wi-Fiを使って直接入力して再生することができるので、どなたでも簡単に入力・再生が可能です。この新商品によって「小さなお店のDX化」を推進していきたいと思っています。



〒 369-1202 寄居町桜沢 984
☎ 048-580-2560
<http://www.art-core.jp>

商品名：武州エルビスサンド

金之介ほるもん 代表：守屋 祐之介

▶エルビスプレスリーを知る年配の方から若い方まで幅広い世代の方に向けて『武州エルビスサンド』を2月1日より新たに販売することになりました。当店は、駅近の立地で寄居の食文化を牽引する店舗です。今回の武州エルビスサンドは、ハイカロリーで、“クレイジーソース”をつけると味変トッピングで“タコス”のような味わいとなり、味の二刀流も楽しむことができます。私のモットーは、地域の食材を地域で食べて頂く「地産地消」と、この地域で食べて笑ってもらう「地産地笑」の2つを目指し、新たな寄居の食文化を築いていきたいと考えています。



〒 369-1203 寄居町寄居 1231-3
☎ 048-581-1418
<https://kinnosukehorumon.owst.jp/>

商品名：スリムフィギア

豊幸電子株式会社 代表取締役 森田 茂

▶『スリムフィギア』は従来方式の電極を地肌に貼り低周波EMS刺激装置と違い、着衣の上から肌露出を伴わず、厚手のコートの上から深層筋刺激が出来ることが特徴です。非侵襲的で痩身や筋肉維持・増強といったケアを必要とした人向けの装置です。

〒 369-1105 深谷市本田 3077-1
☎ 048-583-7570
<https://ho-ko-denshi.com>

